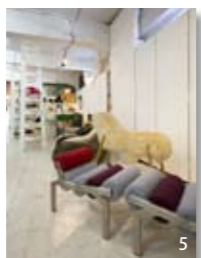




- 1.原さんがデザインしたオリジナルキャラクター「アカイヌ」と、道南・せたな町のわかかけ岩をモチーフにした「わかかけくん」
- 2.家具の代表作「TRAVEL」。またがって座るタイプの椅子で、キャストア付きで移動もできる
- 3.アトリエ兼ショップ「Furniture Design Agra」の店内。カラフルなオリジナルのインテリア雑貨も販売する



5.家具などを展示するショップの壁にも実験的に白い漆喰を塗った



4.北海道産の天然素材、エゾシカ革を用いるブランド「deer park」のバッグやクッション。これも原さんのデザインによる物

原ななえ(はら・ななえ)

東京都生まれ。武蔵野美術大学卒業後、旭川市の家具メーカーに勤務。そこで家具製作の技術を学び、1995年に独立。旭川で「あぐら家具企画」を立ち上げ、オリジナル家具の製作・販売や企画展等の活動を続ける。2001年、札幌に拠点を移し、同年、札幌市内でカフェの内装デザインを初めて担当。09年、北海道産のエゾシカ革を用いてバッグや小物などを製作するブランド「Deer Park」を始動。最近では、店舗デザインや個人宅のリフォームなどを手掛けることが多い。

自由な発想で 物作りを



Furniture Design Agra
(原さんの作品を展示、販売するショップ兼アトリエ)

☎011・533・4149
〒札幌市中央区南6条東1-2-1F
☎11:00 ~ 19:00
✉
🌐www.agra.co.jp/



や店のロゴに至るまで、トータルでデザインを依頼される機会が増えた。原さんの最近のこだわりは、「天然素材と共生する暮らし」だ。「素材はホンモノであることが重要。漆喰と天然木のフローリングを使った部屋は、本当に住み心地が良いです。温かみのある手触りはもちろんですが、一番違うのは壁や床が呼吸をしている事なんです」。

壁紙と違い、漆喰には臭いを吸収する機能があるという。特に飲食店などの壁に用いた場合、その効果はきめんだぞう。「歴史的建造物の修復にも用いられる、日本古来の漆喰の実力はすごい。使ってみて、塗った壁が生きている、と思いました」

一昨年に内装を手掛けたイタリアンワインバー(写真P16)は、古い質屋だった建物。札幌軟石の蔵壁を生かし、それ以外の壁には、店主と2人で漆喰を塗った。持ち主自らが作業に加わることで、家も店も、より愛着が増すに違いない。

北海道での暮らしが好きで、東京へ戻る選択をせずに開業して、こととして20周年。「ちょうどこの節目に完成した新作椅子シリーズを発表します！そのうち、海や山、森を含んだ住処をデザインしたい」と原さん。環境を含めた「住み良い空間」の実現を目指す。

天然素材をデザインに生かす

旭川の家具メーカーで制作技術の基礎を習得し、オリジナル家具のデザイナーとしてデビューした、原ななえさん。現在は家具や雑貨だけでなく、店舗の内装デザインや個人宅のリノベーションを手掛けるなど活躍の幅を広げている。アトリエ兼ショップを訪ね、内装を手掛けた飲食店も案内してもらった。

文：矢代真紀 Makiko Yashiro 写真：齋藤義典 Yoshinori Saito
撮影協力：コンチンカ札幌市中央区



北の仕事人 原ななえ

デザイナー

作品第1号は「またがる椅子」

今から20年ほど前、家具デザイナーとしてデビューした原ななえさんの作品は、鮮烈な印象を放った。代名詞となったのは、動物のようにも見え、ユニークなフォルムの椅子。今にも動きだしそうな躍動感に満ちたデザインは今も多くのファンを持つ。

仕事の幅は次第に広がって、キャラクターの発案や店舗などの空間デザインも手掛けるようになった現在、「肩書は、単にデザイナーにしました。何でも作るのだから笑う」。

東京出身で美大の油絵学科に進み、演劇サークルで大道具を作った事が「立体制作」の面白さに目覚めるきっかけに。「立体作品をきちんと立たせるのって案外難しい。じゃあ何を勉強すればいいのかを考えて、家具だ！と思っただけです」。卒業後、旭川の家具工房に就職。基礎技術を習得して1995年に独立し、自らのレーベル「あぐら家具企画」を立ち上げた。

第1号作品は、愛車のバイクをモチーフにした椅子「TRAVEL」だ。「幼稚園の時、背もたれを抱えて後ろ向きに座ったら、行儀が悪いって叱られた。またがって座る椅子を作りたい、という思いがずっとありました」

2001年に旭川から札幌へ拠点を移した後、家具や雑貨だけでなく空間